

## 8. 医学部

I	医学部の教育目的と特徴	8-2
II	「教育の水準」の分析・判定	8-4
	分析項目 I 教育活動の状況	8-4
	分析項目 II 教育成果の状況	8-18
III	「質の向上度」の分析	8-25

## I 医学部の教育目的と特徴

### 1 医学部の沿革

富山大学医学部は、300年の「富山のくすり」の歴史を背景に、昭和50年に富山医科薬科大学として創設された。創設時から、薬学部・和漢医薬学総合研究所と密接に連携し、東西医学の統合を目標に特色ある教育研究活動を展開してきている。さらに、平成5年に看護学科が設立され、同年、医学部に日本で最初の和漢診療学講座を開設した。この「東西医学融合による東洋の知の創生」という目標は、平成17年10月に県内国立三大学統合後に新富山大学がスタートしてからも受け継がれ、最善の医療技術を提供できるこころ豊かな医療人を輩出している。

### 2 医学部の基本的な目標等

富山大学は中期目標において、大学の基本的な目標として、表Aのような基本理念を掲げている。

表A 富山大学の基本理念

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与する。  
(出典：富山大学中期目標)

医学部では、この目標を達成するために、表Bのような教育目標を定めている。

表B 医学部の教育目標

生命の尊厳を理解し、医療人として不可欠な深い倫理観と温かい人間性を備え、専門的知識及び技能を生涯にわたって維持し向上させる自己学習の習慣を持ち、国際的視野に立って医学、医療の発展、及び地域医療等の社会的ニーズに対応できる人材を養成する。

医学科では、日々進歩する医学の知識、技術を身につけ、医師・医学者として、豊かな人間性を備えた医療の実践及び医学の発展に取り組むことのできる人材を養成する。

看護学科では、全人的な看護の役割と責務を認識し、看護師、保健師及び助産師としての専門的な対応ができる人材を養成する。

(出典：医学部規程)

### 3 特色ある教育活動

医学部は、薬業の長い伝統を有する富山で「医学と薬学の有機的な連携」のもとに「東西医学の統合」の理念を掲げ、地域医療に貢献し世界的にも活躍する人材の育成に努め、常に世界との連携を指向しながら下記の特色ある教育研究を推進してきた(資料1-1-1)。

## 資料1-1-1 医学科教育の特色

- ①伝統医薬の富山で先端医科学を指向し、「西洋医学と東洋医学の融合」と「医学と薬学」の連携を理念とし、「仁愛の精神」を育む教育を行っている。
- ②医学科6年，看護学科4年の一貫教育を行い，医学科，看護科及び薬学部学生へ共通の特色ある教育プログラムを提供し，文字通り患者一人一人の痛みに思いを馳せることのできる医療人養成を行っている。1年次には「医療学入門」，2年次には「和漢医薬学入門」を開講し，伝統的な東洋医学に現代医学の成果を織り込みつつ，先端的医学知識を身につけた意欲的な学生の育成をしている。
- ③医学科の専門教育では，従来の講義形式の授業と並行して，自分自身で問題点を発見し解決する問題解決型の教育を多く取り入れ，臨床実習では，実践的スキルを身に付けられるよう配慮している。また，患者の心の痛みにも目を向け，社会的な支援システム等も理解し，地域医療にも早期から慣れ親しむためのケアマインド，地域医療マインド育成にも力を入れている。これらの取組を通じて，総合的・専門的な基礎・臨床能力を高め，医師としての倫理観，人間性の涵養を図り，地域医療に貢献し，国際的に活躍できる全人的医学教育を推進している。
- ④看護学科の専門教育では，統合カリキュラムの見直しに対し，実習施設・症例数の確保，実習内容の充実が図られ，全学生の看護師及び保健師の免許取得や，選抜制による助産師の免許取得に必要な教育内容を行っている。

(出典：教務委員会及び教務チーム資料より)

## 4 想定する関係者とその期待

医学部を希望する受験生，在校生及びその家族，また卒業生の雇用者（大学・研究機関，附属病院及び他医療機関，地方自治体等），地域社会等の関係者が想定される。

- ・受験生，在校生及びその家族は，医療人に求められる基本的な倫理観，医学知識，技能を習得し，医師や看護師・保健師・助産師の国家試験に合格すること。
- ・大学・研究機関は，日々進歩する医学の知識，技術を身につけ，医師・医学者として，豊かな人間性を備えた医療の実践及び医学の発展に取り組むことのできる人材を育成すること。
- ・医療機関では，医療人としての倫理観と豊かな人間性を有し，チーム医療の一員として医療の実践，専門的な対応ができる医療人を育成すること。
- ・地方自治体や地域社会では，地域住民の医療，保健を担い，その向上に尽力する医療人を育成する。

## II 「教育の水準」の分析・判定

## 分析項目 I 教育活動の状況

## 観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

医学部では、基本理念に基づき、実践的、創造的かつ指導的医療技術者（医師、看護師）を育成することを目的とする教育組織として、研究組織と分離している。本学部は、本学の目的の柱である実践的技術者を育成するため、国内外の動向や社会的ニーズの変化に対応しつつ、学際的な教育も行えるよう編成されている。また、創造的な指導的医療技術者を育成するために、柔軟な教育が実施でき、高度な研究を遂行し教育に反映できる体制として、各教員は基本理念に基づく教育を行っている（表A・B）。

学生募集に関しては、アドミッション・ポリシーを「富山大学案内」や医学部ホームページ上に公表している。ディプロマ・ポリシーは、新入生に配布する「履修の手引」に掲載し、新入生オリエンテーション時に説明し周知している（資料1-1-2）。

また、多彩な人材を確保するため学士入学（医学科2年次編入及び看護学科3年次編入）試験を行い、医学科では、地域医療に従事する医師確保のため、地域枠（県内高校）及び特別枠（自己推薦入試）入試を実施している（資料1-1-3）。

## 資料1-1-2 ディプロマ・ポリシーの認識率

アンケート調査における認識率

平成25年度…92% 平成26年度…77.% 平成27年度…58.8%

(出典：医薬系学務課作成資料)

## 資料1-1-3 医学部の学生定員と現員

	入学定員	編入学定員	収容定員	現員
医学科	105	5	655	673
看護学科	80	10	340	332
計	185	15	995	1,005

(出典：学則及び教務チーム資料より)

教員は大学院医学薬学研究部に所属しており、教育・研究を行う上で、教員の不足など支障が無いように、学内での配置定員を定めている。教員数は、大学設置基準（医学科140人、看護学科12人）を十分満たし、学士課程を遂行するために必要な専任教員が確保されている（資料1-1-4）。

さらに、学外関連教育病院並びに厚生センターに、臨床実習指導を行う臨床教授、臨床准教授、臨床講師を配置し、臨床実習の内容を充実させるため定期的に関連教育病院懇談会を開催している。

資料 1-1-4 医学部教員配置状況

医学部の教育を担当する教員の構成(平成 27 年 5 月 1 日現在)

教養教育

職名	教授	准教授	講師	助教	計
教養教育	7 (3)	4 (3)	0	2(1)	13 (7)

( )内は薬学部に所属し、医学部の教育にも携わっている学科目教員数 (外数)

専門教育

職名	教授	准教授	講師	助教	計
医学科基礎系	15	9	0	33	57
医学科臨床系	21(3)	14(2)	9(5)	42(2)	86(12)
計	36(3)	23(2)	9(5)	75(2)	143(12)

( )内は附属病院の教員 (内数)

職名	教授	准教授	講師	助教	計
看護学科	9	11	0	12	32

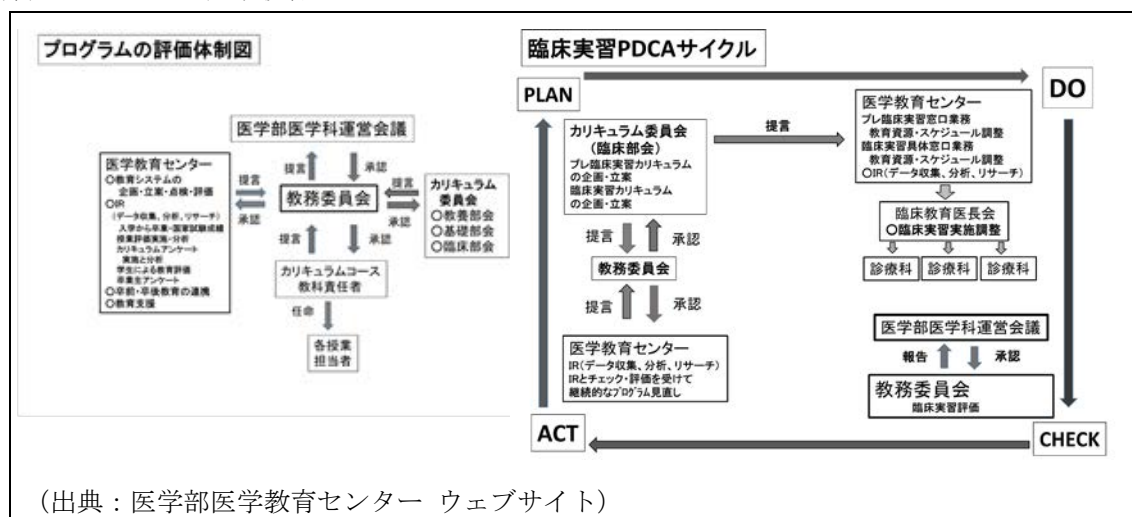
(出典：医薬系支援チーム資料より)

医学科生の卒業研修キャリア支援及びマッチング支援(県内病院)を目的に、キャリアパス創造センターを平成 24 年 7 月設置し、学生の入学から卒業後まで富山県の医療に関わる医学教育、臨床実習及び卒業臨床研修を整備し、将来のキャリアパスの提示や研修医との懇談会開催等を行い、地域医療への定着促進を図っている。

医学科では、学生の学業面や精神面の悩みを把握・支援する体制として、1・2年次の学生に対し、留年者を含めた補習授業、習熟度別クラス授業や上級生による学習スキルコーチング補習授業を実施している。留年生には修学指導ガイダンスを行い、平成 27 年度入学生から、クラス担当教員を 4 人に増員し学生支援体制の強化を図っている。

さらに、医学教育を円滑かつ効果的に行うため、平成 27 年 3 月に医学教育センター(資料 1-1-5)を設置し、教学マネジメント体制の PDCA サイクルを平成 27 年度より導入した。

資料 1-1-5 医学教育センター



(出典：医学部医学教育センター ウェブサイト)

## 富山大学医学部 分析項目 I

医学科、看護学科教務委員会では、教育全般の活動や教育の質向上を図るため、FD研修会を計画し、講演、グループ討議・発表等を実施している。FDでの成果や意見を各学科教務委員会で検討して報告書を作成し、医学科、看護学科のカリキュラム改編や教育現場で活用している（資料1-1-6）。

### 資料1-1-6 平成22年度～平成27年度FD開催状況（参加者数含む）

#### 平成22年度

##### ・医学科

開催日程：平成22年8月6日（金）・7日（土） 1泊2日

参加人数：30人

テーマ：「学士力向上に向けて」

- ①富山大学医学部医学科の教養教育⇔専門医学教育（統合型講義・実習教育）のあり方
- ②医学教育法の工夫、改善（少人数学習とくにチュートリアル教育、統合型授業）
- ③留年対策医学科における講義・授業の充実と活性化に向けて」

##### ・看護学科

開催日時：平成22年9月30日（木）・10月1日 10:00～17:00

参加人数：29人

テーマ：人生100年時代を支える看護教育、次なる一手（基礎編）

#### 平成23年度

##### ・医学科

開催日程：平成23年8月5日（金）・6日（土） 1泊2日

参加人数：21人

テーマ：「医学科における講義・授業の充実と活性化に向けて」

##### ・看護学科

開催日時：平成23年8月22日（月）・9月26日（月）

参加人数：34人

テーマ：人生100年時代を支える看護教育（応用編）

#### 平成24年度

##### ・医学科

開催日程：平成24年8月3日（金）・4日（土） 1泊2日

参加人数：35人

テーマ：よりよい医学教育を目指して

- ①「教養教育科目の卒業要件単位について」
- ②「基礎医学系科目の総合評価について」
- ③「OSCEの運営体制の構築について」
- ④「臨床実習の拡充に向けた見直しについて」

##### ・看護学科

開催日時：平成24年10月1日（月） 10:00～16:45

参加人数：34人

テーマ：看護学科開設20周年の節目に成熟期を目指す学士・大学院教育課程の充実と教員の資質向上

#### 平成25年度

##### ・医学科

開催日程：平成25年8月2日（金）・3日（土） 1泊2日

参加人数：26人

テーマ：よりよい医学教育を目指して② 医学教育の再生

- ①「4年次への進級要件」
- ②「チュートリアルの今後」
- ③「臓器別講義の現状と課題」
- ④「卒業試験のあり方」

##### ・看護学科

開催日時：平成25年10月1日（火） 10:00～16:00

参加人数：34人

テーマ：富山大学医学部看護学科のさらなる発展と教員のキャリアアップを目指して

平成 26 年度

・医学科

開催日程：平成 26 年 8 月 8 日（金）・9 日（土） 1 泊 2 日

参加人数：32 人

テーマ：富山大学の特色を生かした統合型の講義・実習を考える

①教養-専門の統合

②基礎-臨床医学の統合

③医学〇〇という統合授業

④プロフェッショナリズムの統合（コミュニケーション，行動科学，社会医学，人間学としての医学教育）

・看護学科

開催日時：平成 26 年 10 月 1 日（水）10：00～16：00

参加人数：34 人

テーマ：学生に求められる社会人基礎力とその力を育成する教員の在り方

平成 27 年度

・医学科

I. 開催日時：平成 27 年 7 月 31 日（金）・8 月 1 日（土）

参加人数：28 人

テーマ：成果基盤型(OBE)の在り方：その導入と展開

II. 開催日時：平成 27 年 10 月 26 日（月）

参加人数：44 人

テーマ：医学教育に関する FD

III. 開催日時：平成 27 年 10 月 28 日（水）

参加人数：51 人

テーマ：医学教育に関する FD

IV. 開催日時：平成 28 年 1 月 13 日（水）

参加人数：131 人

テーマ：個人情報管理に関する FD

V. 開催日時：平成 28 年 1 月 22 日（金）

参加人数：11 人

テーマ：Moodle を使って自習教材を作る！！

VI. 開催日時：平成 28 年 1 月 26 日（火）

参加人数：12 人

テーマ：Moodle を使って自習教材を作る！！

VII. 開催日時：平成 28 年 1 月 28 日（木）

参加人数：19 人

テーマ：Moodle を使って自習教材を作る！！

VIII. 開催日時：平成 28 年 2 月 17 日（水）

参加人数：13 人

テーマ：マークシートで打ち込み作業をなくそう！

IX. 開催日時：平成 28 年 2 月 22 日（月）

参加人数：8 人

テーマ：マークシートで打ち込み作業をなくそう！

X. 開催日時：平成 28 年 3 月 10 日（木）

参加人数：19 人

テーマ：“Active Learning の実際”

・看護学科

開催日時：平成 27 年 9 月 30 日（水）

参加人数：32 人

テーマ：研究指導と審査評価に対する具体的提案

（教養教育の FD を除く）

（出典：【医学科】平成 22，23，24，25，26，27 年度医学科 FD 報告書

【看護学科】平成 22，23，24，25，26，27 年度看護学科 FD 報告書）

また、医学部学生による授業評価アンケートを毎年度実施し、授業への満足度 5 点満点中 3.7～3.8 点と授業への満足度が高い結果である（資料 1-1-7）。

## 資料 1-1-7 医学部学生授業評価アンケート結果

年度	学期	授業への満足度	授業の理解度	授業環境の維持
平成 23 年度	前学期	3.7	2.9	3.8
	後学期	3.7	2.9	3.8
平成 24 年度	前学期	3.7	2.9	3.7
	後学期	3.8	3.0	3.8
平成 25 年度	前学期	3.7	2.9	3.8
	後学期	3.8	3.0	3.8
平成 26 年度	前学期	3.6	2.9	3.8
	後学期	3.8	3.0	3.8
平成 27 年度	前学期	3.6	2.9	3.7
	後学期	3.7	3.0	3.7

(全専門科目を対象，5点満点の平均値)  
(出典：本学ウェブサイト公表資料抜粋)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

教育組織として、実践的、創造的、指導的技術者の育成に適した課程制を採用し、研究組織を分離し高度な教育研究を実施するとともに、広い分野にわたる学際的な教育も可能な組織を編成し、学士課程は教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっている。

アドミッション・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの目的に沿って教育が実施できる配置定員を定め、大学設置基準を満たした専任教員を確保している。

教育課程の主要授業科目を専任教員が担当し、実験、臨床実習等の授業科目には助教も配置している。また、教員の採用・昇任は、教育研究に関する厳しい採用基準の内部規程を制定し、教授会で厳正に審議を行い必要な教員を確保している。特に看護学科では、平成22年度からの学生定員数の増加に伴い、教育の質担保のため、教員の増員、組織整備、臨地実習整備を行い、社会人基礎力及び学士力の育成に向けた教育水準の向上を図った。

医学科、看護学科では、FD講習会の報告書をまとめ、FD活動の成果が教育現場や教員の意識改革と努力が反映され、教育の質向上や授業改善に結びついていると判断される。

また、学生の授業評価アンケート調査結果でも、授業の改善効果が見られたという結果が得られており、期待される水準にあると判断する。

国際的に活躍できる医師・研究医の養成のため、医学科組織並びにカリキュラム改革を行い、平成 27 年度に新設医科大学で初めて医学教育分野別評価試行を受審した。(別添資料：富山大学医学部医学科自己点検評価書，FD 報告書)



<b>観点 教育内容・方法</b>
-------------------

(観点に係る状況)

本学部は、基本理念の下、日々進歩する医学の知識・技術を身につけ医師・医学者並びに看護師、保健師及び助産師として豊かな人間性を備えた医療の実践及び医学の発展に取り組むことが出来る人材を育成することを教育研究の目標として掲げている。

医学科では6年一貫教育体制をとり、低学年から臨床の講義を開始し、学生教育に対し非常に力を入れている(資料1-2-1)。

看護学科では、「全人的な看護の役割と責務を認識し、看護師、保健師及び助産師としての専門的な対応ができる人材を養成する」ことを目標に、学位授与方針(資料1-2-7)を達成するために、教養教育と専門教育を統合して編成し、理論・知識・技術を総合的に習得させている。

資料1-2-1 医学部医学科コースツリー概要

1年次

医療学入門では、病院や医療・介護施設における体験実習を通して医療人としての基本的態度を学ぶ。また、医学概論では、先進医療や現代医学の現状を学び、医学に対するモチベーションを高める。

2年次-3年次前期

生命の恒常性を保つ仕組みや病気発症のメカニズム(病態生理)を理解するのに必要な基礎医学(解剖学, 生理学, 生化学などの講義・実習)を学ぶ。

3年次後期-4年次前期

臨床医学(病気の原因, 診断, 治療法等)を臓器別に講義で学ぶ

4年次後期

社会医学実習, 基本的な臨床技能を修得する実習(人体模型や医療シミュレータ), 患者とのコミュニケーションの取り方, 病歴の聴取, および基本的診察法等を学ぶ。

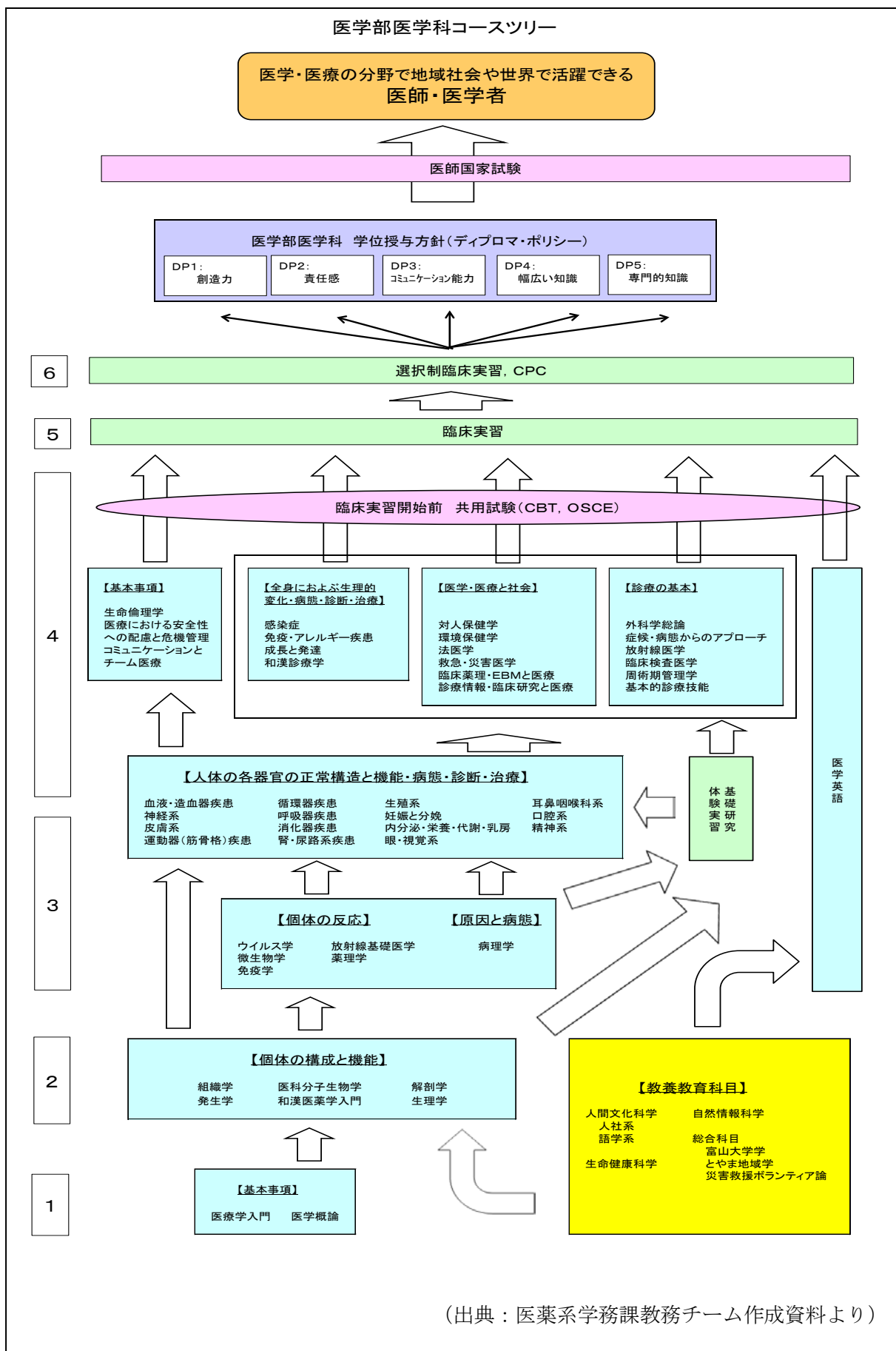
また, 臨床実習前に, 指導医の監督下において, 医師として診察できる知識と技能を評価する共用試験を受験する。共用試験は, 知識評価の筆記試験(CBT)と技能評価の実技試験(OSCE)からなる。

5-6年次

臨床実習により診療・治療の実際を学ぶ。主に大学附属病院の各診療科に数週間配属され, 指導教員の下で学ぶ。6年次の選択制臨床実習では, 県内外や海外の病院も選択可能であり, 学生自身の興味ある臨床実習を学ぶことができる。

各学年随時

各分野のエキスパート(非常勤講師)ならびに外国人招聘教授の講義を設けてあり, 最新医学に接して国際性とディスカッション能力を涵養する。



(出典：医薬系学務課教務チーム作成資料より)

本学部の教育課程及び履修方法等は、学部規則（資料1-2-2）に基づき、授業科目「教養科目」「専門教育科目」に区分され（資料1-2-3）、教養科目は「人間文化科学」「生命健康科学」「自然情報科学」「総合科目」及び「自由科目」で構成し、医療人育成を目指した幅広い知識と教養の修得を目指す内容である。また、教養教育では、医療従事者として必要な医の倫理、医療統計、医療経済等の教育を取入れている。

医学科の教養教育科目は、34単位（27年度入学生以後）（26年度以前は43単位）、「専門教育科目」は、172単位（27年度入学生以後）（26年度以前は159単位）を卒業要件単位数としている（資料1-2-4）。

看護学科は、実践的教育として実務訓練、地域連携教育プログラム（PBL、公募型卒業研究）を必修単位としている。なお、卒業要件単位は、教養教育科目34単位、専門教育科目103単位[そのうち実習科目23単位（助産学は11単位が加わる）]である。また、看護学科の編入学生に対しては、養護教諭二種に必要な「健康・スポーツ科学」の科目を開講している。

大学以外の教育施設等における学修の単位の認定に関する内規に基づき、TOIEC、TOEFL（PBT、iBT）や実用英語技能検定等で一定の得点を収めた者に対し、教養教育科目の英語単位（6単位限度）を認定し、国際的通用性の高い試験の受験を奨励している（資料1-2-5）。

資料1-2-2 教育課程及び履修方法等

（教育課程及び履修方法）

第2条 医学部が開設する授業科目の種類、単位数及び履修年次等は、医学科の正規の課程にあつては別表第1及び別表第2、医学科の編入学の課程にあつては別表第4、看護学科の正規の課程にあつては別表第6及び別表第7、看護学科の編入学の課程にあつては別表第9のとおりとする。

2 授業科目は、原則として、前項に規定する履修年次に従って履修しなければならない。

3 第1項に規定する別表は、教育上必要があると認めるときは、教授会の議を経て、これを変更することができるものとする。

（出典：医学部規程（抜粋））

資料1-2-3 教育課程

【医学部医学科】

教養教育科目

人間文化科学	人社系	「哲学的人間学」	他	2	2科目開講
	語学系	「英語（講読Ⅰ）」	他	1	7科目開講
生命健康科学		「生命科学Ⅰ」	他	1	0科目開講
自然情報科学		「解析学」	他	1	3科目開講
総合科目		「富山大学学」	他	2	科目開講
自由科目		「CALL セミナー」	他	2	科目開講
専門教育科目					
語学		「医学英語Ⅰ」	他	2	科目開講
基本事項		「医学概論」	他	4	科目開講
医学一般		「細胞の基本構造と機能」	他	1	4科目開講
人体の各器官の正常構造と機能・病態・診断・治療		「血液・造血器疾患」	他	1	4科目開講
全身に及ぶ生理的变化・病態・診断・治療		「感染症」	他	4	科目開講

## 富山大学医学部 分析項目 I

診療の基本		「外科学総論」	他	1	1	科目開講
医学・医療と社会		「対人保健学」	他	9		科目開講
臨床実習		「第一内科」	他	2	6	科目開講
選択科目 1		「基礎研究体験実習」		1		科目開講
選択科目 2		「選択制臨床実習」		1		科目開講
自由科目		「基礎研究演習」		1		科目開講
<b>【医学部看護学科】</b>						
教養教育科目						
人間文化科学	人社系	「哲学的人間学」	他	2	2	科目開講
	語学系	「英語 I」	他	1	3	科目開講
生命健康科学		「心の科学」	他	1	0	科目開講
自然情報科学		「医療情報処理」	他	9		科目開講
総合科目		「富山大学学」	他	2		科目開講
自由科目		「CALL セミナー」	他	2		科目開講
専門教育科目						
看護基礎科学		「医療学入門」	他	1	0	科目開講
看護学		「看護学原論」	他	3	8	科目開講
選択科目		「東洋の知と看護」	他	6		科目開講
看護研究		「看護研究入門」	他	1		科目開講
自由科目		「助産診断学」	他	4		科目開講
(出典：医学部規程 (抜粋))						

### 資料 1 - 2 - 4 卒業要件

<b>【医学部医学科卒業要件単位】</b>		
教養教育科目		
人間文化科学	人社系 8 単位, 語学系 6 単位の	1 4 単位
生命健康科学		必修 6 単位
自然情報科学		必修 8 単位
生命健康科学と自然情報科学から		合わせて 2 単位
選択科目全体及び総合科目から		4 単位
計		3 4 単位
専門教育科目		
語学 (医学英語)		3 単位
基本事項		5 単位
医学一般		3 4 単位
人体の各器官の正常構造と機能・病態・診断・治療		3 4 単位
全身に及ぶ生理的变化・病態・診断・治療		7 単位
診療の基本		1 5 単位
医学・医療と社会		1 1 単位
臨床実習		4 7 単位
選択科目 1		4 単位
選択科目 2		1 2 単位
計		1 7 2 単位
合計		2 0 6 単位
<b>【医学部看護学科卒業要件単位】</b>		
教養教育科目		
人間文化科学	人社系 1 0 単位及び	
	英語 I から英語Ⅷまでのうちの 5 単位を含む	1 5 単位
生命健康科学		必修 7 単位を含む 9 単位
自然情報科学		必修 2 単位を含む 6 単位
人間文化科学, 生命健康科学,		
	自然情報科学, 総合科目の選択科目から	4 単位
計		3 4 単位

専門教育科目	
看護基礎科学	19 単位
看護学	76 単位
選択科目	2 単位
看護研究	6 単位
計	103 単位
合計	137 単位

(出典：医学部規程 (抜粋))

資料 1-2-5 大学以外の教育施設等における学修の単位の認定

別表

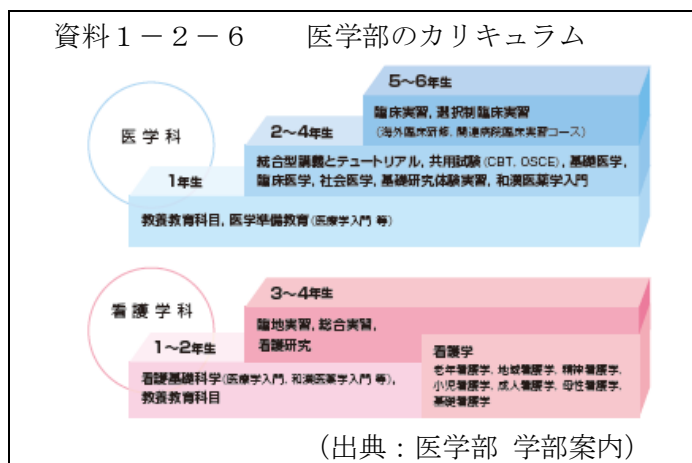
認定する資格	学科等	単位数	授業科目
実用英語技能検定 1級 TOEIC 850 点以上 TOEFL 588 点以上(PBT) TOEFL 96 点以上(iBT) ※ いずれか一に限る。	医学科 看護学科	6	教養教育科目： 英語  ※ 認定する単位数は、 6 単位を限度とする。  ※ 既に単位を認定された 資格を有する者が上級の 資格を取得した場合には、 上級の資格で認定する 単位数と既に認定された 単位数との差を限度として 認定する。
TOEIC 796~849 点 TOEFL 569~587 点(PBT) TOEFL 88~95 点(iBT) ※ いずれか一に限る。	医学科 看護学科	4	
実用英語技能検定準1級 TOEIC 650~795 点 TOEFL 509~568 点(PBT) TOEFL 64~87 点(iBT) ※ いずれか一に限る。	医学科 看護学科	2	
実用フランス語技能検定試験 3級以上	医学科	4	教養教育科目：基礎仏語Ⅰ・Ⅱ 実用仏語Ⅰ・Ⅱ
	看護学科	2	教養教育科目：仏語Ⅰ・Ⅱ
実用フランス語技能検定試験 4級	医学科	2	教養教育科目：基礎仏語Ⅰ 実用仏語Ⅰ
	看護学科	2	教養教育科目：仏語Ⅰ・Ⅱ
実用フランス語技能検定試験 5級	医学科	1	教養教育科目： 基礎仏語Ⅰ又は実用仏語Ⅰのいずれか一
	看護学科	1	教養教育科目：仏語Ⅰ
ドイツ語技能検定試験 3級以上	医学科	4	教養教育科目：基礎独語Ⅰ・Ⅱ 実用独語Ⅰ・Ⅱ
	看護学科	2	教養教育科目：独語Ⅰ・Ⅱ
ドイツ語技能検定試験 4級	医学科	2	教養教育科目：基礎独語Ⅰ 実用独語Ⅰ
	看護学科	1	教養教育科目：独語Ⅰ

TOEIC は、TOEIC IP test を含む。また TOEFL (PBT) は TOEFL ITP を含む。  
 ※TOEFL・PBT = (Paper-based Test)  
 TOEFL・iBT = (Internet-based Test)  
 TOEFL・ITP = (Institutional Testing Program)

(出典：富山大学医学部における大学以外の教育施設等における学修の単位の認定に関する内規より抜粋)

医学科では、医師として重要な人格涵養の教育に重点を置いた教養教育と、医学専門教育の基礎と臨床の知識・技術の習得を重視している。専門教育科目では、医学科設立時よりテュートリアル制度を導入し、自らが問題意識を持って学習し解決することが重要であると認識させている。臨床実習では、クリニカル・クラークシップの導入により、卒後研修

との間に乖離が生じないよう、積極的な姿勢で臨ませている。また、臨床実習では外部の医療機関の関連教育病院制を取入れ、地域医療の現状を体験・理解できる体制である。看護学科では、各専門科目を看護学として統合的に理解させるように配慮し、看護学実習（臨地実習、総合実習）では、実習時間と施設を拡充させ、質の高い学習内容となっている。さらに、保健師教育の地域看護学実習でも、十分な実習施設を確保するとともに、助産学教育では、3施設の病院で学生1人当たり10～11人の正常分娩を介助させ、充実した教育を実施している（資料1-2-6）。



本学の中期計画では、表Cに示される教育目標を掲げている。医学部では、国際社会で活躍する人材育成を進めるため、平成24年度に学部の学位授与方針を改定し、学習到達度を明確化するとともに、帰国生徒及び普通高校推薦入学者の授業区分の見直しなど、教育課程の編成に配慮している（資料1-2-7）。

表C 中期計画における教育目標

- ・社会の現場で活用できる実践的な能力・技能を育むために、実社会における課題に関連した科目設定など、キャリア形成支援のための教育を充実させる。
  - ・質の高い専門教育を行うために、適切な教育組織の整備を進める。
  - ・情報通信技術（ICT）などを活用した、主体的学習環境の充実を図る。
  - ・カリキュラムについて十分なガイダンスを行うほか、学習と学生生活について、助言教員制度などを積極的に活用し、きめ細かな指導・助言を行う。
  - ・キャリア形成を軸とし、卒業後の進路設計を見据えた総合的な支援に取り組む。
  - ・教員は海外研修等により、日本人学生は交換留学生制度や短期語学研修により、積極的に国際社会で活躍することが可能となるような研鑽機会を提供する。
- (出典：本学第2期中期計画)

資料1-2-7 学位授与方針

医学部医学科 学位授与方針

**創造力**  
難病の原因解明や治療法の開発に取り組む際に基本となる“課題設定・探求能力”、“分析評価能力”及び“柔軟な発想力”が備わっている。

**責任感**  
豊かな人間性を有し、生命の尊厳について深い認識のもとに人の命と健康を守る医師

の職責を十分理解し、医師の義務や医療倫理を遵守し、絶えず患者本位に立つ職業人として行動することができる。

高い協調性のもとに、自分の果たすべき役割を認識し、医療チームの一員として適切に行動できる。

#### コミュニケーション能力

情報や情報手段を活用できる基本的な知識や技能とともに、それらの情報を主体的に判断して適切に活用する能力を有し、外国語を始めとするコミュニケーション能力を示し、地域社会・国際社会に貢献できる。

#### 幅広い知識

知的職業人としての幅広い知識を有し、人間文化科学、生命健康科学、自然科学の各分野を総合的にとらえる学際的視野を身につけている。

#### 専門的知識

医療人の業務を遂行する職業人として必要な実践力（統合された知識・技能、態度・行動に基づく総合的診療能力）が涵養されている。

医学・医療の進歩における研究の必要性を理解し、医療の質の向上のために生涯にわたり主体的に学ぶ姿勢を身につけている。

#### 医学部看護学科 学位授与方針

##### 創造力

柔軟な発想力・探究心を持ち、自ら課題設定し、主体的に分析・評価ができる問題解決能力、すなわち社会の多様で個性の高いニーズへの対応策を創造する能力を身につけている。

##### 責任感

豊かな人間性と生命の尊厳に対する敬愛を持ち、医療倫理観を備えるとともに看護職としての責務を果たす能力を身につけている。また保健医療福祉チームの一員として自らの役割を果たすとともに、高い協調性が発揮できる実践能力を身につけている。

##### コミュニケーション能力

語学力及びコミュニケーション技術を駆使して、情報や情報手段を活用できる基本的な知識や技能とともに、それらの情報を主体的に判断して適切に活用できる能力を有し、保健医療福祉の幅広い観点から地域社会、国際社会に貢献できる意思と能力を身につけている。

##### 幅広い知識

人間文化科学、自然科学、生命健康科学、疾病治療学の各分野を学際的に捉え、総合的な人間理解にむけた幅広い知識とそれらを応用する能力を身につけている。

##### 専門的知識

健康の維持・増進、健康上の問題の予防と回復に向けて、科学的根拠に基づき適確なヘルスアセスメントを行い、対象の特性や能力に応じた看護を計画的に実践できる能力を身につけている。

対象との良好な関係性、地域社会との関わりのもと、保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し、支援システム構築とチーム体制整備に必要な実践能力を身につけている。

看護とその専門性を系統的に探究し、自己の看護観を深め、専門職として研鑽し続けることができる。

（出典：医学部・薬学部履修の手引きより抜粋）

多様な学生に対応するため、学年毎の担任制度、クラスアワー等を設け、学年進行及び学修状況に応じ、学生との個別面談や進路について情報提供している。

医学科では、少人数のグループ学習やクラス全体で発表・討論（資料1-2-8）により、知識のまとめと体系化を行い、自ら問題を的確に捉えて解決する能力と創造力を育成する教育を行っている。また、自学自習の姿勢や課題探求・問題解決能力を育成するため、少人数教育、対話型教育などを重視した教育を推進している。

看護学科では、学生の特徴に応じ1年次から4年次までのテュートリアル教育新カリキュラム（シラバス）を段階的に実施し、授業評価アンケート（資料1-1-7）により評

価・改善した。その結果、学生の特性を加味した少人数教育・対話型教育の成果が得られ、選択科目で行う最先端医療と看護英語、助産学ゼミナールでは講義形式では得られない対話型の充実した授業が展開された。また、個別対応の状況を早期に把握し、実施するため、看護技術教育においても少人数担任制をとり、学修状況・進路相談などを行ってきた。

資料1-2-8 少人数教育の具体例

医療学入門 グループ討議(10人程度に分かれての討議)  
介護体験実習(1施設2人程度に分かれての体験実習)

医学科

- ・チュートリアル教育(8人～9人に分かれての問題解決型少人数教育)
- ・臨床実習(2人～5, 6人に分かれての病院での実習)
- ・選択制臨床実習(1人～4, 5人に分かれての病院での実習)

看護学科

- ・臨地実習(6人～8人に分かれての厚生センター, 病院等での実習)
- ・助産学ゼミナール(5人～6人に分かれて課題研究)
- ・卒業研究(4人～6人に分かれて研究)

(出典:教務チーム作成資料より)

本学部では、国際的能力を涵養するため、自己学習により外国語のリーディング能力、リスニング能力を強化するため CALL セミナーを行っている(資料1-2-9)。

資料1-2-9 CALL セミナー概要

受講方法

本セミナーは、初学期にCALLセミナーⅠ、次学期にⅡを受講し、個人ベースでの学習の継続/深化に対応した自己学習ができ、最大Ⅷまでの単位が習得可能である。4月にオリエンテーション説明を行い、その後個人ベースの自習時間帯を決定させている。

教材

教材としてWeb教材『ACL ネットアカデミー』(英), 『Listen to me』(英)の一般英語・アカデミックイングリッシュ・TOEIC 対策教材, EuroTalk 社の独語, 仏語, 中国語用教材, TOEFL・TOEIC 対策用等の各種語学学習用参考書等を使用している。

有用性

目的を明確にもった学生には一定の有効性が認められる。特に自立した外国語学習を遂行できることに対する達成感と満足度はその後の外国語学習に一定の良好な動機づけとなっている。ただ、医学科のカリキュラム編成上、継続的な取組については限度があることも歪めない。

(出典:担当教員による受講学生の学習記録分析より)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

医学科では6年一貫教育体制を取り、低学年から臨床講義を開始し、学生教育に力を入



れている。医学科のカリキュラムは、富山の地域医療や国際的にも活躍できる優れた医師育成を目指し、社会要請に応じた教育課程の編成に配慮していると判断でき、卒業生は、臨床医、医学研究者及び医学教育者として活躍して、医学発展と社会福祉の向上に貢献し、21世紀の医療・医学を担う人材を輩出している。

看護学科では、平成22年度から学生定員数の増加に伴い、教育の質担保のため教員の増員、組織整備、臨地実習の形態・整備、社会人基礎力及び学士力の育成に向けたFD等を行い、教育水準の向上を図ってきた。また、各学年に担任（助言教員）を配置し、ガイダンスやクラスアワーを年数回実施している。一方、学習と学生生活で欠席が多い学生や単位履修が順調でない学生に対し、教務委員会、学生委員会、医療人教育室運営会議等で多角的に情報を収集し、助言教員による面接指導・保健管理センターの紹介等を行い学生のサポート強化を行っている。

本学部では、少人数教育と少人数単位で編成された学生グループが、自らの意欲と学習により問題を解決し、学習への動機づけを持つなど、医学教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされていると判断する。

地域医療を含め豊富な症例に接し、臨床経験の幅や国際的な広い視野を持つため、大学附属病院、県内外の医療機関等の関連教育病院や海外の大学と提携し、臨床実習教育を行っている。クリニカル・クラークシップの実習は、密度の濃い臨床実習が可能になるよう、少人数グループ編成による教育体制となっている。

以上のことから、医学部の教育方法は期待される水準にあると判断する。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

## 観点 学業の成果

(観点に係る状況)

医師国家試験合格率は、平成 25 年度を除き、全国平均以上を維持している。

看護師・保健師・助産師国家試験は毎年全国平均を上回り、特に、助産コースでは 100% の合格率である。また、卒業年度に不合格であった学生に対し、担任教員が個別面談・模擬試験の案内・受験対応等のフォローアップを行い、既卒者の合格率は約 100% となっている(資料 2-1-1)。

## 資料 2-1-1 国家試験合格率

国家試験合格率 (新卒)								
	医師国家試験		看護師国家試験		保健師国家試験		助産師国家試験	
	本学	全国平均	本学	全国平均	本学	全国平均	本学	全国平均
H22	89.0%	89.3%	100.0%	91.8%	90.0%	86.3%	100.0%	97.2%
H23	95.6%	90.2%	98.4%	90.1%	92.9%	86.0%	100.0%	95.0%
H24	93.5%	89.8%	100.0%	88.8%	98.4%	96.0%	100.0%	98.1%
H25	87.8%	90.6%	96.3%	89.8%	95.3%	86.5%	100.0%	96.9%
H26	92.6%	91.2%	95.1%	90.0%	100.0%	99.4%	100.0%	99.9%
H27	95.1%	91.5%	98.7%	89.4%	95.2%	89.8%	100.0%	99.8%

(出典：厚生労働省国家試験合格発表資料より抜粋)

医学科では、次世代を担う医学研究者を育成するため、本学の医学生を対象に研究医養成プログラムを開設し、修了要件である研究活動成果の学術研究会発表や、学術誌への投稿・掲載された 11 人の合格を認め、平成 26 年度に初めて修了者を出した(資料 2-1-2)。

## 資料 2-1-2 学会・学術誌での論文発表状況

## 研究医養成プログラムでの発表実績

- 学会発表：①日本病理学会第 102 回総会(2013 年 6 月 札幌)  
 ②日本解剖学会中部地区地方会(2013 年 10 月 山梨)  
 ③第 22 回海馬と高次脳機能学会(2013 年 10 月 金沢)  
 ④第 60 回日本ウイルス学会学術会議(2012 年 11 月 大阪)  
 ⑤第 4 回関東甲信越免疫不全研究会(2013 年 9 月 東京)  
 ⑥日本感染症学会第 26 回学術大会(2013 年 11 月 岐阜)  
 ⑦第 31 回和漢医薬学会(2013 年 8 月 千葉)

学術論文：Modern Pathology Sep:26, 2013

(出典：教務チーム作成資料より)

## 富山大学医学部 分析項目Ⅱ

医学科、看護学科では、学生の学習状況を教務委員会等で検討し、1年次の段階から計画的に履修できるよう、各学年担任を中心に指導している。学生は、学務情報システムで常に単位修得状況、成績状況を正確に把握・理解できる仕組みになっている。

医学科生の留年については、富山大学医学部規定第12条第3項の規定に基づき、進級基準を満たさない場合は、進級することができない指導留年制度を定めている。

留年者、退学者等の状況は次のとおりである（資料2-1-3）。医学科では、1・2年次に留年者が多いが、留年した学生を支援するため、教養科目では講義以外に事前補講や学生の習熟度別講義を行っている。また、基礎医学科目では、留年者を基礎医学講座に配属し留年期間を通して勉学させる等のフォローを行っている。

資料2-1-3 各年度留年者、退学者状況

医学科							
	留年者						退学・ 除籍者
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
平成22年	3	13	0	0	0	0	1
平成23年	4	10	0	3	0	3	2
平成24年	3	8	0	4	0	0	2
平成25年	2	12	0	9	0	3	3
平成26年	5	5	0	4	0	6	5
平成27年	5	2	0	10	0	7	4
計	22	50	0	30	0	19	17

看護学科					
	留年者				退学・ 除籍者
	1年次	2年次	3年次	4年次	
平成22年	0	3	1	1	2
平成23年	0	4	0	0	3
平成24年	0	2	3	1	2
平成25年	1	1	1	1	1
平成26年	0	2	1	1	1
平成27年	0	4	3	0	0
計	1	16	9	4	9

（出典：教務チーム作成資料より）

医学部では、卒業時に授業評価、学習達成度に関するアンケート調査を実施し、アンケート結果では、養われた又はある程度養われたと回答した学生は8割以上いたが、語学力では、5割強から6割と若干低めであった（資料2-1-4）。

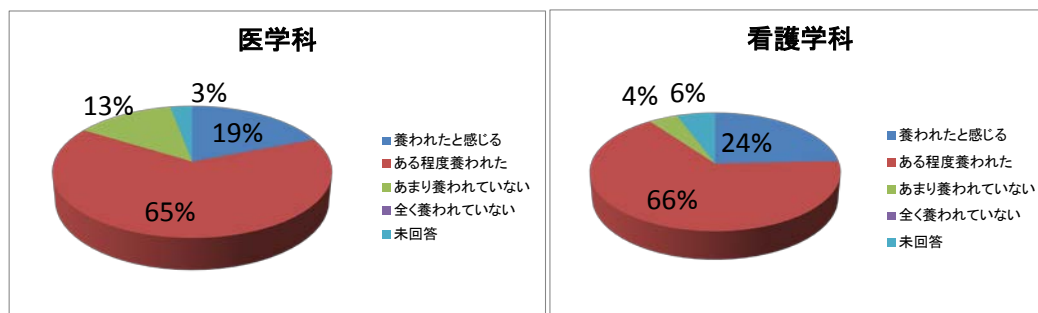
資料 2-1-4 卒業時アンケート

平成 26 年度卒業生アンケート調査（医学部平成 27 年 3 月卒業者）

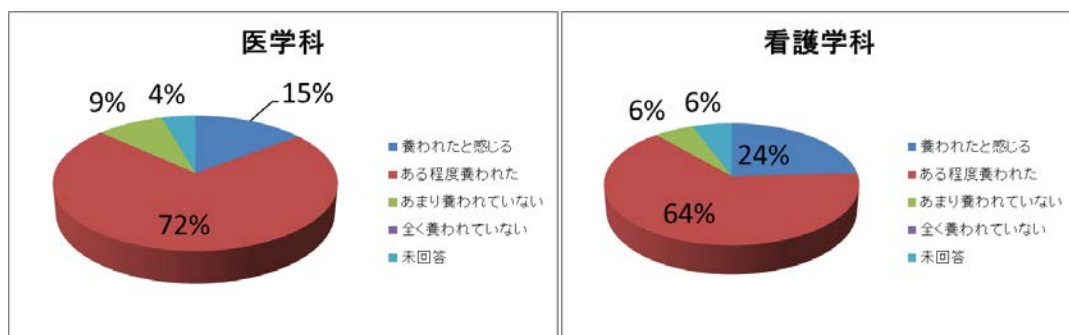
【アンケート結果について】

アンケートの結果，次のとおり回答があった。

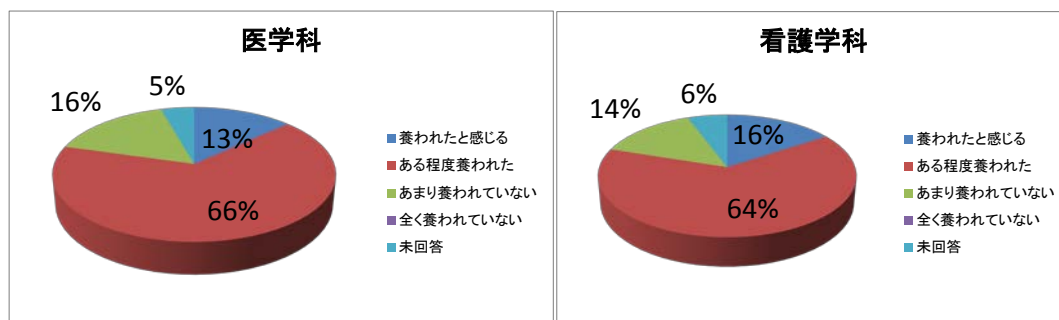
① 医学部で学んだ結果，医療人としての「課題設定・探究能力」が養われたと感じますか。



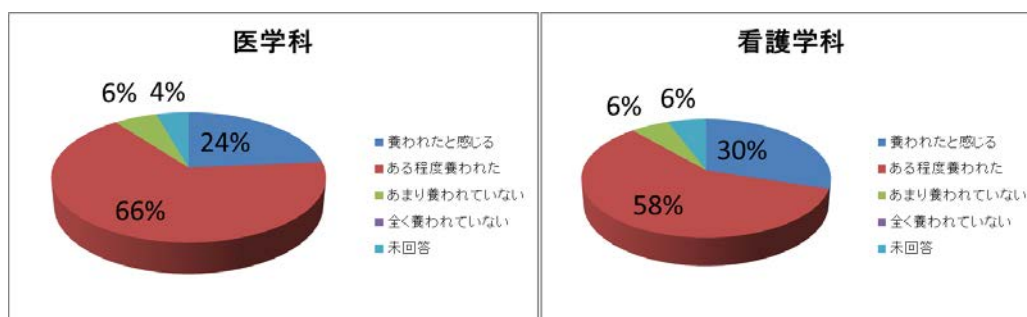
② 医学部で学んだ結果，医療人としての「分析評価能力」が養われたと感じますか。



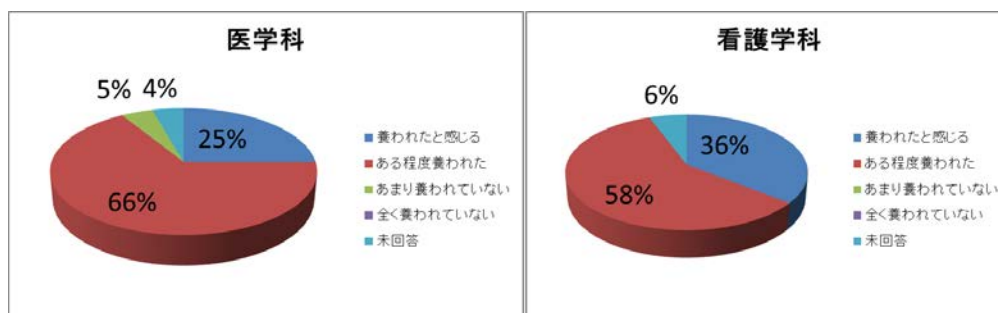
③ 医学部で学んだ結果，医療人としての「柔軟な発想力」が養われたと感じますか。



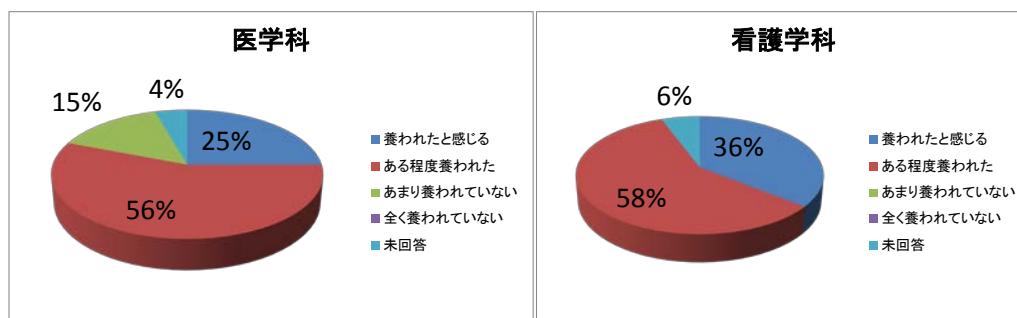
④ 医学部で学んだ結果，医療人としての「倫理観」が養われたと感じますか。



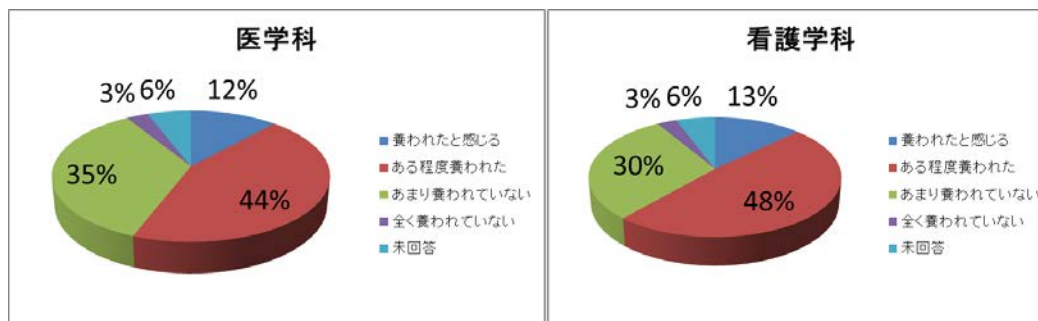
⑤ 医学部で学んだ結果，医療人としての「責任感」が養われたと感じますか。



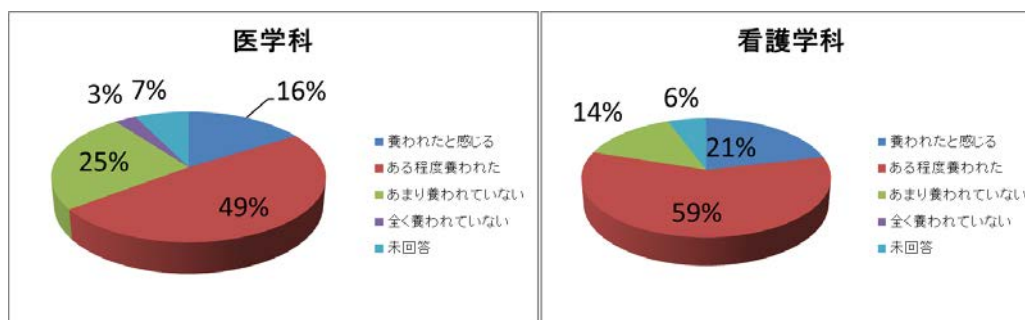
⑥ 医学部で学んだ結果，医療人としての「コミュニケーション技術」が養われたと感じますか。



⑦ 医学部で学んだ結果，医療人としての「語学力」が養われたと感じますか。



⑧ 医学部で学んだ結果，医療人としての専門知識だけでなく人間文化科学や自然科学等，幅広い知識が養われたと感じますか。



(出典：本学ウェブサイト公表資料抜粋)

[http://www3.u-toyama.ac.jp/cei/inside/commence2014\(med\).pdf](http://www3.u-toyama.ac.jp/cei/inside/commence2014(med).pdf)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

医学科、看護学科の国家試験合格率は全国平均以上を維持しており、医学教育の成果や効果が上がっていると判断する。また、医学科では研究医養成プログラムを設け、研究成果は学会等での発表や学術誌にも投稿されている。

学生による授業評価、学習達成度に関するアンケート調査結果が示すように、授業目標の理解・授業紹介との対応に関しては、高い割合で教育効果が得られたと学生自身が判断している。また、教員の説明・内容の理解に関してもアンケート調査結果により学生が満足している。さらに、総合的満足度に関しても、おおむね高い評価を得ており、大学が編成した教育課程・授業を通じて、大学の意図する教育の効果があったと学生自身が判断していると考えられる。

以上のことから、医学部における学業の成果は期待される水準にあると判断する。

## 観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

医師国家試験合格率は、全国平均以上を維持しており、合格者全てが病院に研修医として勤務していることから、教育の効果は十分挙げられていると判断される(資料2-2-1)。看護学科では、看護師・保健師・助産師国家試験合格率は高い合格率を維持し、毎年8から9割の就職率と1割強の進学率、県内就職は5割後半～7割で高い県内就職率である(資料2-2-1)。これは、本学の使命である「地域活性化の中核的拠点」として、地域医療を担う人材の輩出に高く貢献している。

また、卒業生等(OB)に対するアンケート調査も実施し、OBに対するアンケートでは、医療人としての「課題設定・探究能力」、「分析評価能力」、「柔軟な発想力」、「倫理観」や「責任感」等が、養われた又はある程度養われたとの回答が7割以上あったが、「語学力」や「幅広い知識」については4割から5割強が養われた、ある程度養われたとの回答であった(資料2-2-2)。

資料2-2-1 医学部卒業後の進路

【医学部卒業後の進路】

・ 医学科

	卒業 者数	研修医			その他	
		人数	本学 (内数)	%	人数	%
H22	82	73	(17)	89.0%	9	11.0%
H23	91	87	(27)	95.6%	4	4.4%
H24	93	87	(23)	93.5%	6	6.5%
H25	90	79	(20)	87.8%	11	12.2%
H26	108	100	(30)	92.6%	8	7.4%
H27	103	98	(22)	95.1%	5	4.9%

・ 看護学科

	卒業 者数	医療機関			進学		その他	
		人数	県内 (内数)	%	人数	%	人数	%
H22	70	64	47	91.4%	6	8.6%	0	0.0%
H23	70	62	41	88.6%	7	10.0%	1	1.4%
H24	64	53	36	82.8%	11	17.2%	0	0.0%
H25	86	68	40	79.1%	14	16.3%	4	4.7%
H26	89	80	46	89.9%	6	6.7%	3	3.4%
H27	85	79	41	92.9%	5	5.9%	1	1.2%

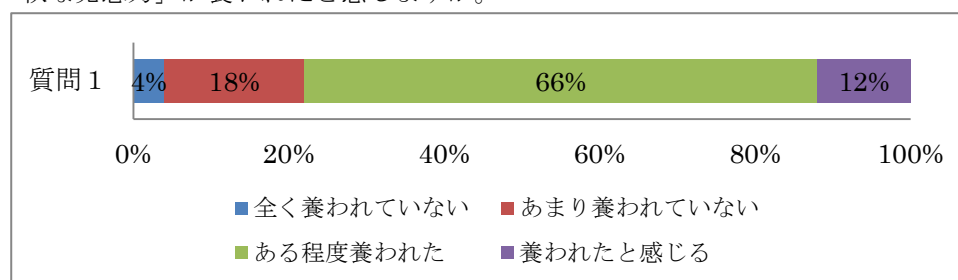
(出典：学生支援チーム資料より抜粋)

資料2-2-2 卒業生等(0B)へのアンケート結果

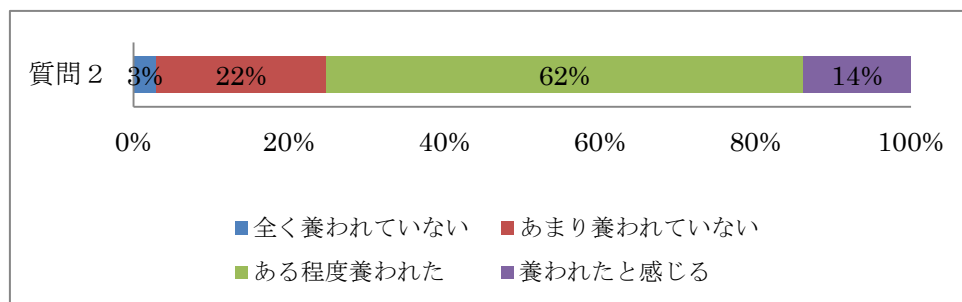
平成22年度、平成23年度並びに平成24度に卒業した学生を対象に、医学部における学位授与方針に基づく、卒業生アンケートを実施した。

アンケート調査期間：平成25年12月から平成26年1月まで回答期間

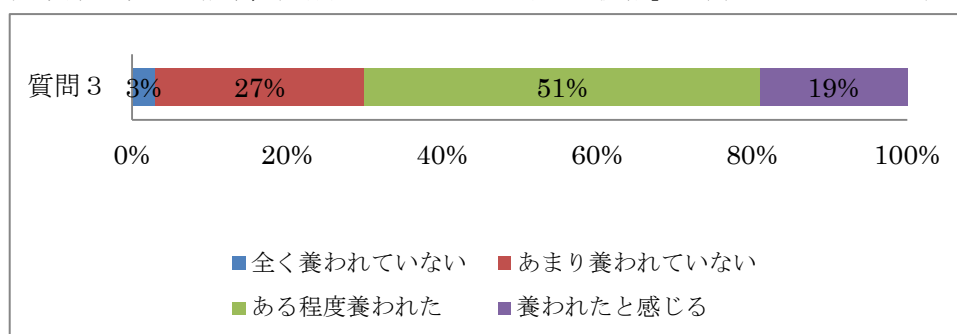
1. 医学部で学んだ結果、医療人としての「課題設定・探究能力」、「分析評価能力」、「柔軟な発想力」が養われたと感じますか。



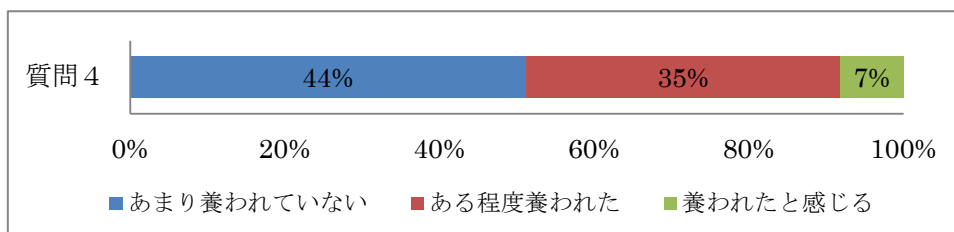
2. 医学部で学んだ結果、医療人としての「倫理観」や「責任感」が養われたと感じますか。



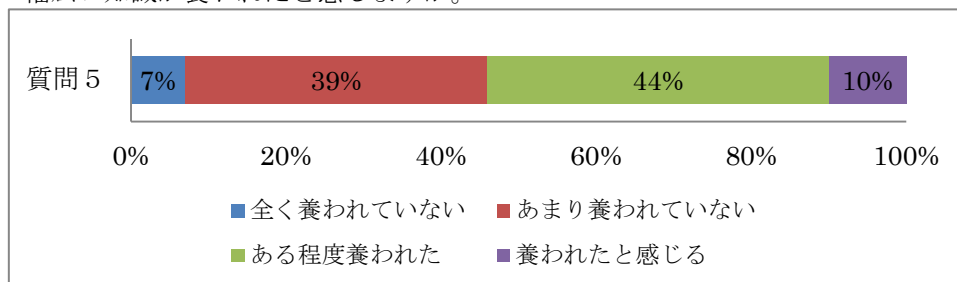
3. 医学部で学んだ結果、医療人としての「コミュニケーション技術」が養われたと感じますか。



4. 医学部で学んだ結果、医療人としての「語学力」が養われたと感じますか。



5. 医学部で学んだ結果、医療人としての専門知識だけでなく人間文化科学や自然科学等、幅広い知識が養われたと感じますか。



(出典: 本学ウェブサイト公表資料抜粋) [http://www3.u-toyama.ac.jp/cei/inside/grad2013\(med\).pdf](http://www3.u-toyama.ac.jp/cei/inside/grad2013(med).pdf)

(水準)

期待される水準にある。



## (判断理由)

医師国家試験合格率は、全国平均以上を維持し、教育の成果や効果が十分上がっていると判断する。本学では、地域医療充実の医師確保対策として、新たにキャリアパス創造センターを設置し、研修医の増員を目的として卒前から卒後臨床研修、専門医教育、生涯教育まで一貫した医師の教育体制の構築に取り組んできた。

看護師・保健師・助産師国家試験合格率は、毎年全国平均を上回り、特に、選抜して専攻する助産コースにおいては100%の合格率である。国試合格者は進学者を除くと100%就職し、5割後半から7割が県内就職するなど高い県内就職率であり、地域医療に貢献していると判断する。また、卒業年度に不合格であった学生に対し、卒業時の担任が個別面談、模擬試験の案内、受験対応等を行い、既卒者の合格はほぼ100%となっているなど、医学部の進路・就職の状況は期待される水準にあると判断する。

### Ⅲ 「質の向上度」の分析

#### (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

医学科では、地域枠・特別枠推薦入試の実施、キャリアパス創造センターの設立、カリキュラムの大幅な改定を第2期中期目標期間中に実施した。さらに、国際的に活躍できる医療人を育てるため、英語でのコミュニケーション能力向上を目的に、医学英語の充実を図った。自主学習を重視したテュートリアル教育では、課題を臨床的課題に変更し、基礎医学知識の応用展開能力、課題に関連した臨床的知識の深い理解を目指し、臨床医学の学習方法が身につくのみでなく、臨床症例に対して問題点を発見・整理し、解決する方法を身につけさせることが可能となった。臨床実習教育では、第2期中期目標期間中に参加型臨床実習の期間を次第に増加させ（資料3-1-1）、平成27年度入学生より医学教育の国際基準72週を確保するカリキュラムに改変した。少人数グループを重視し、臨床医として望ましい態度や価値観を早期に身につけるため、医療の一員として実習を行う診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)も行っている。

資料3-1-1 臨床実習の実習週数の変遷

年度	実習期間	実習週数 (合計)	臨床実習(H19年 度以降CPC等含む)	選択制 臨床実習
H22	平成22年4月5日～平成23年6月17日	53週	45週	8週
H23	平成23年4月4日～平成24年6月15日	53週	45週	8週
H24	平成24年4月2日～平成26年6月14日	53週	45週	8週
H25	平成25年4月1日～平成26年6月27日	57週	45週	12週
H26	平成26年4月1日～平成27年6月26日	58週	46週	12週
H27	平成27年3月16日～平成28年7月15日	61週	49週	12週
H28	平成28年2月22日～平成29年7月14日	64週	50週	14週

(出典：教務チーム作成資料より)

看護学科では、学士教育として質の高い看護専門職者を育成するため、第2期中期目標期間において教務委員会、臨地実習専門委員会並びにFD活動を中心に、保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正（平成23年）におけるカリキュラム改正に対応した授業内容の検討、実習施設の検討・拡大等を行い、看護師・保健師・助産師教育の講義・演習・実習の質の向上及び臨地実習時間の増加を図り、保健師・助産師の臨地実習は規準以上の時間数を確保した。

学生指導・支援では、学年毎の担任制を中心に、少人数グループ指導、教務委員会、学生委員会、医療人教育室運営会議等で多角的に情報収集し、担任による面接指導・保健管理センターの紹介等を実施しているが、とくに第2期中期目標期間では、学生支援方を教務委員会で正式に明文化してマニュアル化するとともに、学生に対する全支援活動を記録し、きめ細かいサポート体制を構築した。

第2期中期目標期間から導入した医学部学生における授業アンケート調査や卒業時等アンケートからも、学生の授業への満足度は高く評価され、医学科、看護学科の国家試験合格率は、全国平均以上を維持しており、教育活動は高い水準を維持・向上していると判断する。

### （2）分析項目Ⅱ 教育成果の状況

医学科は教育目標に沿って6年一貫教育体制をとり、低学年から臨床講義を開始し、学生教育に非常に力を入れている。医学科カリキュラムは、富山の地域医療に貢献し、国際的にも活躍できる優れた医師の育成を目指し、社会要請に応じた教育課程の編成に配慮していると判断される。第2期中期目標期間では、地域医療を含め、豊富な症例に接する事により臨床経験の幅を広くし、国際的な広い視野を持てるように、本学附属病院、県内外の医療機関の関連教育病院及び海外の大学と広く提携し、診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）を行っている。また、世界医学教育連盟（WFME）の水準まで実習時間を大幅に増やすカリキュラム改革を行った。さらに、医師国家試験合格率は、全国平均以上を維持し、全ての合格者が研修医として勤務しており、教育の効果は十分挙げられていると判断され、平成27年度に医学教育分野別評価試行を受審した。

看護学科では、第2期中期目標期間において、教育目標ならびに保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正（平成23年）に沿ってカリキュラムを改正した。また、学生の学習状況を学部教務委員会等で検討し、1年次から計画的に履修できるよう指導している。看護師・保健師・助産師国家試験は、毎年全国平均を上回り、選抜して専攻する助産コースでは、100%の合格率である。さらに、国家試験不合格者には、卒後の支援・指導を行い、既卒者合格もほぼ100%となっている。また、学生増やカリキュラム改正等の変化にも即座に対応し、第2期中期目標期間には実習関連教育病院・施設を拡大させ、十分な教育成果が挙げられている。

以上のことから、教育水準は向上していると判断する。